

神戸松蔭女子学院大学

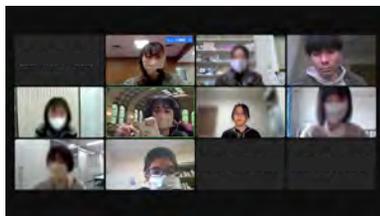
との交流会を開催!!

2023年1月30日におよそ1年ぶりとなる、ULiCSと神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターチームの交流会を実施した。両校でスケジュールを調整した結果Zoomでの開催となり、ULiCSからは4名、松蔭大サポーターチームからは2名が参加した。

01

「本で自己紹介」 & 活動紹介

初めに、「本で自己紹介」を行った。名前や所属学部だけではなく、自分を表していると思う本も見せ合い、図書館チームならではの方法で自己紹介である。それぞれの選書理由には、学部や専門に関連している、主人公と似ていると思う、趣味にまつわる内容である、とある一文が自分を表現していると思う、読書好きのきっかけを作った、などが挙げられた。6名の選書のなかだけでも、大衆小説、専門書、いわゆる「文学」と個性が表れた選書となり、とても興味深い時間となった。



続いて活動報告を兼ね、互いに活動を紹介した。活動の様子は互いに刺激となった。2022年度のULiCSの活動については、本号4面でもまとめて紹介しているのでぜひ参照していただきたい。

02

「2023年の読書」を語る。

今回のメインイベントは「2023年の読書」と題し、今年1年の読書計画を共有し、交流を深めるというものだった。読書計画について、今まで触れてこなかったジャンルも読みたいという声や、勉学のツールであることはもちろんだが直感的な好みにも立ち返って選書をしたという声、中には積読の解消や、読んだことのある本をもう一度味わい直すことを目標とするなど、各々のこれまでに積み上げてきた読書経験に基づいて2023年の読書を展望していた。具体的に本を紹介してその本を読んだときの思いを共有したり、訳書や電子書籍にまつわるあるあるが飛び出したり、本を通じて共感したり、お互いに深掘りしたりするという充実した時間が過ごせた。

最後に参加者全員がそれぞれの感想を述べ、お開きとなった。読書傾向の幅広さ、本好きという共通した思いに気づききっかけになった他、本について人と話すという時間が読書していた自分を改めて認識する機会となったという感想も出た。読書をする時間それ自体も楽しい時間を過ごせるものだが、読書の経験を多くの人と共有する時間も素晴らしさに溢れていたことを実感した交流会だった。

神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターチーム、そして交流会の企画・運営のために動いてくださった皆様に感謝申し上げます。(文学部4年 伊藤) 1



第11回 大学図書館学生協働交流シンポジウム

参加報告

2022年9月9日に、第11回大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催された。ULiCSからは2名が参加した。

01 テーマ&アイスブレイク

今回のテーマは、「ウィズコロナ時代の学生協働～会える時も会えない時も～」である。新型コロナウイルスの影響が続く中でも、全国の大学図書館の学生・教職員は日々活動を続けてきた。そこで今回のシンポジウムは、各大学の活動報告を通じて、コロナ禍における活動の工夫や困難を共有することを目的としている。

まず「アイスブレイク」と称し、福井県立図書館の人気記事「覚え違いタイトル集」を題材にしたクイズ大会が行われた。『100万回死んだねこ』などはまだ楽しみながら回答できたが、中には原型をほとんど留めていないタイトルも登場し、利用者のお探し物の本を探す司書の苦労が身に沁みた。

02 各団体事例報告

続いてプレゼンテーション形式で合計9つの団体が活動報告を行った（各大学・団体名については以下の「登壇団体」を参照）。これらの中には、ULiCSと同様に図書館に関わるイベントの企画をメインとする団体もあれば、図書館だけにとどまらず学生の学びを包括的に支援することを目的とする団体もあり、各大学によって「図書館学生チーム」の果たす役割が大きく異なっていたことが印象的であった。どの活動報告も、今後のULiCSの活動において参考になるものばかりであり、非常に勉強になった。

今回のシンポジウムを開催してくださった中国四国地区大学図書館協議会の皆様、また、登壇団体をはじめとしてシンポジウムのために動いてくださった各大学の皆様に感謝申し上げます。（国際人間科学部4年 中尾）

登壇団体

- ①九州大学・図書館TA Cuter
- ②高知県立大学（永国寺図書館）・図書館サークルLibe
- ③摂南大学・図書館学生サポーター
- ④徳島大学・阿波ビブリオバトルサポーター
- ⑤徳島大学・学びサポート企画部
- ⑥広島大学・図書館サポーター HULS
- ⑦文教大学（越谷図書館）・学生協働サポーター「ほんだな係」
- ⑧松山大学・図書館学生アドバイザースタッフ「C3」
- ⑨山口県立大学・YPU LEC（図書館盛り上げ隊）



自然科学系図書館

RENEWAL OPEN!!

2021年12月から改修工事のため閉館していた自然科学系図書館が、今春リニューアルオープンした。開架室やラーニングcommonsを含め全階が生まれ変わり、快適に読書・勉学に励むことができそうである。自然科学系図書館内にある我々ULiCSの部室も2年ぶりに利用できるようになり、今後の活動が楽しみだ。



ポスター

第11回大学図書館学生協働交流シンポジウム

ウィズコロナ時代の学生協働
～会える時も会えない時も～

日時	プログラム
2022年9月9日(金)	12:30 接続開始
13:00-16:30	13:00 開会挨拶
	13:10 アイスブレイク
	13:30 各団体事例報告
	15:45 フリートーク
	16:25 閉会挨拶

開催方法
オンライン(Zoom)

新型コロナウイルスの影響が続く中も、全国の大学図書館の学生・教職員は、日々活動しています！

コロナ禍での工夫や悩みを共有するために、今行っている活動、できている活動をぜひ発表してみませんか？

主催：中国四国地区大学図書館協議会
共催：山形大学図書館協議会
鳥取県立大学・高尾専門学校の図書館協議会
広島県立大学図書館協議会
後援：全国大学協働交流ネット実行協議会
(図書館協働推進委員会)
協賛：山形大学図書館
©2022 Shikoku University of Librarianship (ULiCS)

BOOK REVIEWS



ここじゃない世界に
行ったかった/塩谷舞
/文藝春秋/2021年

かつて「バズライター」と呼ばれていた文筆家の塩谷舞が綴るエッセイ。彼女が持つ眼差しや独自の美学が心地よいテンポで語られる。余所見をしているかのようなタイトルの印象とは正反対に、言葉たちはじっと真っすぐ現実を見つめている。その現実には、塩谷が生まれたニュータウン、会社員時代を過ごした大都会、一時拠点を構えたニューヨークや語学留学で訪れたダブリンなど、色々な土地で起こったことであり、遠い国で起きていることでもある。忙しい日常に追われ、ふと「ここじゃない世界」を志向したとしても、そこだって誰かにとっての自分の世界。そして「ここじゃない世界」であろうとなかろうと、私が私であることも揺るがない。この本はそんなことを意識させてくれる。単なるイデオロギーひとつだけでは表し得ない、複雑で繊細なひとりの人間が文章を通じてそっと浮かび上がってくる。そんな著作を、塩谷は読者に視点の異なる友人がいるような感覚で読んでほしいと語る。この本は、あなた自身とその周りについて考え始めたくなるきっかけをくれる友人になるはずだ。
(文学部4年 伊藤)



同志少女よ、敵を撃
て/逢坂冬馬/早川書
房/2021年

「戦いたいのか、死にたいのか。」独ソ戦に乗り込む、小さな小さな狙撃小隊の物語。目の前でドイツ軍に家族を奪われたセラフィマは、復讐のために狙撃兵となった。だが、彼女が撃つべき“敵”とは、自らの命を狙うドイツ兵だけにとどまらなかった。「物語の中の兵士は、必ず男の姿をしていた。」戦時下における女性兵士は、銃後の存在として描かれることが多かった。第二次世界大戦後における女性兵士は、これまで長い間、あまりその存在は公にされてこなかった。勝者は、相手国の女性を陵辱する権利を手にする。その事実が、男性兵士の結束力を高める要因にもなっていた。「君はなんのために戦う」銃が為せるのは、殺戮のみ。目標は敵兵を撃つこと自体ではなく、その先にある。極限状態で戦い続けたセラフィマは、何を得たのか。何を失ったのか。戦い抜いた先に、何が見えたのか。その全貌は、ぜひ手に取って確認してほしい。2022年本屋大賞を受賞したことも納得の超大作。
(国際人間科学部4年 中尾)



銀獣の集い 廣嶋玲
子短編集/廣嶋玲子/
東京創元社/2021年

珠玉のファンタジー。現実世界とまろやかに溶け込んだ神秘さに自然と引き込まれてしまう。3つの短編は、どれもが匂い立つほどの魅力に溢れていた。1つ目、富豪の差し金で5人の男女は「銀獣」に魅せられることとなる。半人半獣の銀獣、その圧倒的な美に酩酊した彼らは、尽きることのない欲に突き動かされる。美しさにひれ伏し、貪欲に追い求めるなんとも哀れな人間がここに……自分もそのひとりだろうが。2つ目、罪人として灯台守をする青年は、ひとり幻にうなされている。かつて愛し、今は憎んでいる女の幻だ。そんなある日、1人の少女が流れ着くのだ。卑屈なほどに謙虚な灯台守が過去と決別する瞬間、えもいわれぬ清々しさを覚える。3つ目、箱入り娘キアには母との約束があった。好奇心からそれを破った先には、恐ろしく哀しい真実が顔を出す。箱庭から飛び出す希望、切なさ、そして残酷な真実は血のような果汁を滴らせるブラッドオレンジを思い起こさせる。細かな装飾の施された言葉を楽しみたい方、甘美な怖さを好む方にぴったりだろう。
(国際人間科学部4年 佐藤)

最近の活動紹介

実際に展示・企画などを担当したメンバーが2022年度の個性あふれる活動を紹介！開催準備中の企画も宣伝しちゃいます！！

書庫から選んで古さを競うイベント。久しぶりの対面開催で、企画メンバーもドキドキ。対面イベントの開催までやりたいことが手広くできることも、ULiCSの強み。



7月27日 化石本発掘

【対面イベント】総合・国際文化学図書館書庫

図書館共通テーマ
展示「神戸/神戸
大学ゆかりの図書」
とのコラボ企画！
正解者にはクリアフ
ァイルをプレゼント。

クイズラリー

「兵庫の旅」

開催期間：7/27(水)～7/29(金)

参加方法：総合・国際文化学図書館
2・3階にあるクイズコーナー下フォーム
から応募

賞品：メールアドレスにて当日抽選し
ます



11月 兵庫の旅クイズラリー

【企画】総合・国際文化学図書館内

神戸大学出版会の本と著者が関連する学部を神戸大学のキャンスマップに反映。地図と合わせるアイデアを元に制作し、学部や本の多様性をカラフルさで表現した。



1月 出版会まっぴ

【展示】総合・国際文化学図書館2階

定例活動

新メンバーも随時募集中！
あなたもULiCSと一緒に
活動しませんか？

定例会

月1回程度。活動の進捗を確認したり、アイデアを提案したりする。

まごまご読書倶楽部

月1回程度。テーマを決め、それに沿った本を各自で持ち寄り、語り合う時間。最近のテーマは「タイトルが短い本」や「うさぎに関する本」など。



本の書き出しだけを見て、気になるものを選んでもらい、その一文が載っている本を開架室で探す展示。企画コンセプトは“図書館で、はじめまして”。



3～5月 はじまりの一文

【展示】総合・国際文化学図書館2階

「読書の秋」をテーマに部員が本への愛を語った。アーカイブはHPからいつでも聴くことができる。



9月 神戸大学Radio!出演

【メディア進出】神戸大学本部

神戸大学出版会とコラボし、興味を惹かれるタイトルの本を展示。展示する本を自由に選び、ポップを作成すると本屋さん気分。隣のULiCS文庫も同じ手順で制作。



12月 タイトルに惹かれた本

【展示】総合・国際文化学図書館2階

これから開催！2022年春に実施した同企画をブラッシュアップ。2022年版のコンセプトはそのままに、より手軽で便利に楽しめる企画を目指して計画中！



4月 はじまりの一文2023

【展示】総合・国際文化学図書館2階

ULiCS TIMES

現在は年2回発行。最近の活動についてや書評を掲載する。記事もレイアウトもメンバーたちで考える。

ULiCS文庫

個人でテーマを決めてコーナーを作ることができる展示。選書も展示エリアの装飾も全て自由自在。